

宿題に困難さを抱える児童生徒への配慮・支援を考える

—学びの多様性を踏まえ、授業と家庭のつながりを重視した宿題の可能性—

特別支援教育研究会議

研究員 中村 康一 教諭(川崎市立中央支援学校) 佐久間 愛実 教諭(川崎市立下布田小学校)

江野 緑朗 総括教諭(川崎市立稲田中学校)

指導主事 伊藤 琢也(特別支援教育センター)

I 主題設定の理由

1 特別支援教育からインクルーシブ教育システムの構築へ

平成19年度の改正学校教育法の施行により、障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を講じていく特別支援教育がスタートして10年になろうとしている。この間、特別支援教育において、「個別」の支援を講じることを大切にしながら、障害の有無に関わらず学級や授業づくりという「集団」を育てることが見直されてきている。このようなインクルージョンの理念を受けて、川崎市では平成27年度から概ね10年間の教育振興計画として、第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」とそれに基づく本市の特別支援教育の方針として「第2期川崎市特別支援教育推進計画」(2015)を策定した。基本理念として、「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」、基本目標として、「自主・自立」「共生・協働」を掲げ、ともに支え、高め合える社会の構築を教育の重要な役割として位置付けている。今後学校教育では、その基本理念や基本目標が目指すインクルーシブ教育システムの構築に向け、基礎的環境整備¹や個人に必要なとされる合理的配慮²の提供など、すべての幼児児童生徒の教育活動を保障していく取組が加速していくと思われる。

2 誰にとっても分かりやすく、取り組みやすい授業づくりの推進

児童生徒の支援について考えると、困難さを抱える児童生徒への個別の支援(2次・3次支援)を活かすためには、包摂する学級づくりや授業づくり(1次支援)について考える必要がある。学校教育の中心は、授業である。児童生徒の教室環境を整え学習活動への参加を保障するために、教師が授業中に生じるバリア(Barrier)を極力取り除くことはとても重要である。特に発達障害等により学習面・行動面につまづきがある児童生徒にとっては、認知特性に配慮した授業づくりが求められている。

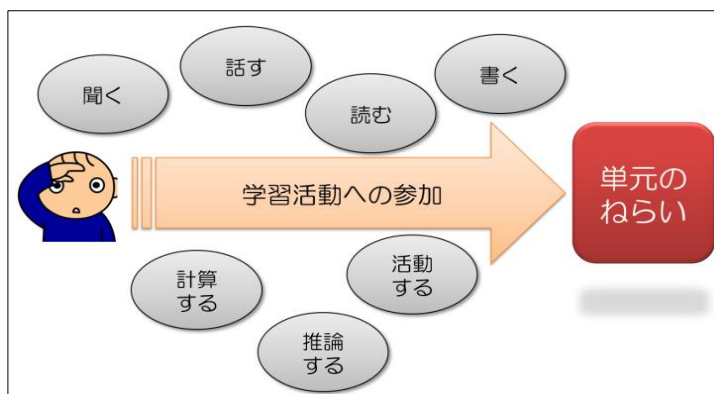


図1 授業のアクセシビリティ(Accessibility)とバリア(Barrier)

本市では、校内授業研究会を中心に据えて、授業のユニバーサルデザイン化の視点で授業力の向上³が進められている。研究協議会では、すべての児童生徒が単元のねらいにせまることができるように、学習活動(読む・書く・聞く・見る・話す・考える等)の中で生じるバリアを取り除き、授業のアクセシビリティ(Accessibility)を高める取組が活発になってきている(図1)。

¹ 障害のある幼児児童生徒に対し、その状況に応じて「合理的配慮」を提供するための基礎となる環境整備のこと。中央教育審議会初等中等教育分科会『共生社会の形成に向けた インクルーシブ教育システム構築のための 特別支援教育の推進(報告)』H24.7.23。

² 障害者の権利に関する条約「第二条 定義」においては、「合理的配慮」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。中央教育審議会初等中等教育分科会『同上(報告)』H24.7.23。

³ 川崎市総合教育センター研究紀要 第28号(平成26年度)特別支援教育センター指導主事研究会議「学校の校内授業研究と連携した取組—取り組みやすい授業を作る—」pp5-16。

3 宿題におけるアクセシビリティとバリア

一方、授業のユニバーサルデザイン化が進む中で、日々学校から課される「宿題」に悩んでいる児童生徒も少なくないと思われる。宿題は学級(教科)担任に一任されており、その内容や頻度、分量などは様々である。また、児童生徒にとっては、一人一人に応じた指導・支援を得ることが難しいため、宿題が「できない」「わからない」「提出できない」ことが自尊感情の低下につながることを懸念される。

本研究会議では、宿題について教師と児童生徒の両面から現状と課題を整理し、児童生徒の宿題へのアクセシビリティを高めるために、バリアをできる限り取り除くことができないか検証した。さらに、授業のユニバーサルデザイン化の視点による授業力の向上で培われた知見を、宿題で活かしていく手立てとして、授業と家庭のつながりを重視した宿題の可能性を探っていくこととした。

II 研究の内容

1 市内抽出校のアンケートによる実態調査(方法)

(1) アンケート対象※特別支援学級及び特別支援学校の児童生徒のアンケートは、教師の支援または保護者の協力を得て実施。

対象教師	小学校:通常の学級担当(n=15)・特別支援学級担当(n=6) 中学校:通常の学級担当(n=40)・特別支援学級担当(n=4) 特別支援学校:小学部担当(n=10)・中学部担当(n=20)
対象児童生徒	小学校:通常の学級の全児童(n=397)・特別支援学級の全児童(n=7) 中学校:通常の学級1年生生徒(n=294)・特別支援学級の全生徒(n=12) 特別支援学校 中学部 1年生生徒(n=18)

(2) 教師へのアンケート(質問紙)※網掛けは、質問紙の内容を表記。

<p>1. 宿題を出す意味について、お考えを聞かせてください(複数回答可)。*意味 ①家庭学習の習慣を身に付けるため ②授業等の補充のため ③授業等の予習のため ④基礎・基本の定着を図るため ⑤その他</p> <p>2. 宿題について、家庭の協力をどの程度想定していますか。*家庭の協力 ①児童の自分の力で ②家庭からの言葉かけや意欲の喚起 ③つまづいている箇所は家庭で補助 ④全面的に協力 ⑤その他</p> <p>3. 教科(領域)、頻度、分量(一日の中で宿題に費やす時間)について、聞かせてください(複数回答可)。*頻度、分量 <頻度>①毎日 ②週2日・3日 ③土日、祝祭日のみ ④月に1・2回 ⑤長期休業のみ ⑥土日、祝祭日は出さない ⑦長期休業は出さない ⑧出さない <分量>(一日の中で宿題に費やす時間)①1時間以上 ②1時間程度 ③45分程度 ④30分程度 ⑤15分程度 ⑥10分以下 ⑦5分以下</p> <p>4. 国語・算数の内容について、お聞かせください(複数回答可。中学校は、専門教科を記入)。*内容 ①読む ②書く ③問題を解く ④間違った箇所を訂正する ⑤思考・表現する ⑥調べる ⑦活動する(制作・練習) ⑧その他</p> <p>5. 宿題の確認について (1)宿題は、どのような方法で確認していますか(複数回答可)。*確認方法 ①一人一人コメントを記入 ②段階的に評価を与える ③検印のみ ④口頭での確認 ⑤授業中に確認 ⑥その他 (2)宿題を評価(※特別支援学級・学校では、個別指導計画)に加味していますか。*評価 ①加味している ②どちらかというに加味している ③どちらともいえない ④どちらかというに加味していない ⑤加味していない (3)(2)の理由についてお聞かせください(自由記述)。* (2)の理由</p> <p>6. 宿題についての悩みや工夫していることがありましたら、お聞かせください(自由記述)。*悩みや工夫</p>
--

(3) 児童生徒へのアンケート(質問紙)※網掛けは、質問紙の内容を表記。特別支援学級・学校児童生徒は、宿題に家庭学習も含む。

<p>1. 一日の宿題は、どのくらいで終わりますか(どれか1つ)。*時間 ①1時間以上 ②1時間くらい ③45分くらい ④30分くらい ⑤15分くらい ⑥10分くらい ⑦5分以下</p> <p>2. 自分から宿題をしますか(どれか1つ)。*主体性 ①自分から進んでする ②仕方なくする ③家族に言われてする ④あまりやらない ⑤やらない</p> <p>3. 宿題は、どこでやっていますか(複数回答可)。*場所 ①自分の部屋 ②自分の家のリビング ③友達の家 ④わくわく・学童 ⑤学校 ⑥その他</p> <p>4. 宿題は、誰かに手伝ってもらいますか(複数回答可)。*協同性 ①ひとりです ②家族 ③友達 ④学習塾・家庭教師の先生 ⑤わくわく・学童のスタッフ ⑥その他</p> <p>5. 宿題は、むずかしいですか(どれか1つ)。*課題の設定 ①むずかしい ②どちらかというむずかしい ③どちらかというやさしい ④やさしい</p> <p>6. 宿題で困ることはありますか(複数回答可)。*学習方法 ①量が多い ②時間がない ③書くことが多い ④読むことが多い ⑤やり方がわからない ⑥やるきがでない ⑦宿題をする場所がない ⑧困ることはない ⑨その他</p> <p>7. 学校以外で、学習や活動していることはありますか(複数回答可)。*その他の家庭学習 ①学習塾・家庭教師 ②スポーツ・ダンスなど ③音楽・美術など ④英語 ⑤そろばん ⑥書道 ⑦活動していない ⑧その他</p> <p>8. 今まで、楽しくできた宿題は、どんな宿題でしたか(自由記述)。*印象的な宿題</p> <p>9. どんな宿題なら、やってみたいと思いますか(自由記述)。*宿題への期待</p>

2 アンケートによる実態調査(結果)

(1) 教師へのアンケート

①質問紙の結果(小学校・中学校 通常の学級担当)

表1 小学校(n=15)・中学校(n=40) 通常の学級担当者 アンケート結果

<p>1. 宿題を出す意味について、お考えを聞かせてください。 ※複数回答可</p> <table border="1"> <caption>1. 宿題を出す意味について、お考えを聞かせてください。 ※複数回答可</caption> <thead> <tr> <th>教師グループ</th> <th>①家庭学習の習慣を身に付けるため</th> <th>②授業等の補充のため</th> <th>③授業等の予習のため</th> <th>④基礎・基本の定着を図るため</th> <th>⑤その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校通常教師</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学通常合計教師</td> <td>25</td> <td>19</td> <td>7</td> <td>20</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>実技教科小計教師</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5教科小計教師</td> <td>21</td> <td>14</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	教師グループ	①家庭学習の習慣を身に付けるため	②授業等の補充のため	③授業等の予習のため	④基礎・基本の定着を図るため	⑤その他	小学校通常教師	10	9	2	8	0	中学通常合計教師	25	19	7	20	3	実技教科小計教師	4	5	1	3	1	5教科小計教師	21	14	6	17	2	<p>2. 宿題について、家庭の協力をどの程度想定していますか。</p> <table border="1"> <caption>2. 宿題について、家庭の協力をどの程度想定していますか。</caption> <thead> <tr> <th>教師グループ</th> <th>①児童生徒の力で</th> <th>②家庭からの言葉かけや意欲の喚起</th> <th>③つまづいている箇所は家庭で補助</th> <th>④全面的に協力</th> <th>⑤その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校通常教師</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学通常合計教師</td> <td>21</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>実技教科小計教師</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5教科小計教師</td> <td>18</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	教師グループ	①児童生徒の力で	②家庭からの言葉かけや意欲の喚起	③つまづいている箇所は家庭で補助	④全面的に協力	⑤その他	小学校通常教師	8	8	5	10	0	中学通常合計教師	21	12	9	0	0	実技教科小計教師	3	5	2	0	0	5教科小計教師	18	7	7	0	0																																										
教師グループ	①家庭学習の習慣を身に付けるため	②授業等の補充のため	③授業等の予習のため	④基礎・基本の定着を図るため	⑤その他																																																																																																		
小学校通常教師	10	9	2	8	0																																																																																																		
中学通常合計教師	25	19	7	20	3																																																																																																		
実技教科小計教師	4	5	1	3	1																																																																																																		
5教科小計教師	21	14	6	17	2																																																																																																		
教師グループ	①児童生徒の力で	②家庭からの言葉かけや意欲の喚起	③つまづいている箇所は家庭で補助	④全面的に協力	⑤その他																																																																																																		
小学校通常教師	8	8	5	10	0																																																																																																		
中学通常合計教師	21	12	9	0	0																																																																																																		
実技教科小計教師	3	5	2	0	0																																																																																																		
5教科小計教師	18	7	7	0	0																																																																																																		
<p>1. 小・中学校ともほぼ同じ傾向がみられた。「③授業の予習のため」と回答した教師は小教であった。「⑤その他」では、「自分で考える時間をもたせるため」との回答があった。</p>	<p>2. 小学校より中学校の方が「①児童生徒の力で」考える割合が増加している。中学校の中では、特に5教科でその傾向が強くなる。</p>																																																																																																						
<p>3. 頻度について、聞かせてください(中学は専門教科)。 ※複数回答可</p> <table border="1"> <caption>3. 頻度について、聞かせてください(中学は専門教科)。 ※複数回答可</caption> <thead> <tr> <th>教師グループ</th> <th>①毎日</th> <th>②週2日・3日</th> <th>③土日、祝祭日のみ</th> <th>④月に1・2回</th> <th>⑤長期休業のみ</th> <th>⑥土日、祝祭日は出さない</th> <th>⑦長期休業は出さない</th> <th>⑧出さない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校通常(国語)教師</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小学校通常(算数)教師</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学通常合計教師</td> <td>4</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>実技教科小計教師</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5教科小計教師</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>15</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	教師グループ	①毎日	②週2日・3日	③土日、祝祭日のみ	④月に1・2回	⑤長期休業のみ	⑥土日、祝祭日は出さない	⑦長期休業は出さない	⑧出さない	小学校通常(国語)教師	10	0	4	0	0	0	0	0	小学校通常(算数)教師	3	8	0	1	1	3	0	0	中学通常合計教師	4	12	1	17	13	4	3	1	実技教科小計教師	2	3	0	2	2	1	3	1	5教科小計教師	2	9	1	15	11	0	0	0	<p>3. 分量(一日の中で宿題に費やす時間)について、聞かせてください(中学は専門教科)。 ※複数回答可</p> <table border="1"> <caption>3. 分量(一日の中で宿題に費やす時間)について、聞かせてください(中学は専門教科)。 ※複数回答可</caption> <thead> <tr> <th>教師グループ</th> <th>①1時間以上</th> <th>②1時間程度</th> <th>③45分程度</th> <th>④30分程度</th> <th>⑤15分程度</th> <th>⑥10分以下</th> <th>⑦5分以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校通常(国語)教師</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小学校通常(算数)教師</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学通常合計教師</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>1</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>実技教科小計教師</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5教科小計教師</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	教師グループ	①1時間以上	②1時間程度	③45分程度	④30分程度	⑤15分程度	⑥10分以下	⑦5分以下	小学校通常(国語)教師	3	7	3	1	0	0	0	小学校通常(算数)教師	2	8	1	0	0	0	0	中学通常合計教師	3	11	1	12	9	3	4	実技教科小計教師	0	4	0	1	2	0	3	5教科小計教師	3	7	1	11	7	3	1
教師グループ	①毎日	②週2日・3日	③土日、祝祭日のみ	④月に1・2回	⑤長期休業のみ	⑥土日、祝祭日は出さない	⑦長期休業は出さない	⑧出さない																																																																																															
小学校通常(国語)教師	10	0	4	0	0	0	0	0																																																																																															
小学校通常(算数)教師	3	8	0	1	1	3	0	0																																																																																															
中学通常合計教師	4	12	1	17	13	4	3	1																																																																																															
実技教科小計教師	2	3	0	2	2	1	3	1																																																																																															
5教科小計教師	2	9	1	15	11	0	0	0																																																																																															
教師グループ	①1時間以上	②1時間程度	③45分程度	④30分程度	⑤15分程度	⑥10分以下	⑦5分以下																																																																																																
小学校通常(国語)教師	3	7	3	1	0	0	0																																																																																																
小学校通常(算数)教師	2	8	1	0	0	0	0																																																																																																
中学通常合計教師	3	11	1	12	9	3	4																																																																																																
実技教科小計教師	0	4	0	1	2	0	3																																																																																																
5教科小計教師	3	7	1	11	7	3	1																																																																																																
<p>3. 宿題の頻度について、小学校の国語は、ほぼ毎日出されている。算数は週2・3日と多い。中学校では、「④月に1・2回」「②週2・3日」が多く、同様に長期休業のみ出すと考えている教師も多い。</p>	<p>3. 宿題の分量については、小学校では国語・算数とも「⑤15分程度」が多い。中学校では、小学校で回答がなかった「②1時間程度」「①1時間以上」の宿題を想定している教師も多い。</p>																																																																																																						
<p>4. 内容について、お聞かせください(中学は専門教科)。 ※複数回答可</p> <table border="1"> <caption>4. 内容について、お聞かせください(中学は専門教科)。 ※複数回答可</caption> <thead> <tr> <th>教師グループ</th> <th>①読む</th> <th>②書く</th> <th>③問題を解く</th> <th>④間違った箇所を訂正する</th> <th>⑤思考・表現する</th> <th>⑥読める</th> <th>⑦活動する(制作・練習)</th> <th>⑧その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校通常(国語)教師</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小学校通常(算数)教師</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学通常合計教師</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>実技教科小計教師</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5教科小計教師</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	教師グループ	①読む	②書く	③問題を解く	④間違った箇所を訂正する	⑤思考・表現する	⑥読める	⑦活動する(制作・練習)	⑧その他	小学校通常(国語)教師	11	12	2	5	1	5	4	0	小学校通常(算数)教師	2	3	13	8	2	1	10	0	中学通常合計教師	8	15	10	4	10	13	11	1	実技教科小計教師	2	4	1	1	2	3	6	0	5教科小計教師	6	11	15	3	8	10	5	1	<p>5. 宿題の確認について(1)宿題は、どのような方法で確認していますか。 ※複数回答可</p> <table border="1"> <caption>5. 宿題の確認について(1)宿題は、どのような方法で確認していますか。 ※複数回答可</caption> <thead> <tr> <th>教師グループ</th> <th>①一人一人コメントを記入</th> <th>②段階的に評価を与える</th> <th>③検印のみ</th> <th>④口頭での確認</th> <th>⑤授業中に確認</th> <th>⑥その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校通常教師</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>中学通常合計教師</td> <td>6</td> <td>25</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>20</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>実技教科小計教師</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5教科小計教師</td> <td>4</td> <td>19</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>17</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	教師グループ	①一人一人コメントを記入	②段階的に評価を与える	③検印のみ	④口頭での確認	⑤授業中に確認	⑥その他	小学校通常教師	3	7	10	2	9	3	中学通常合計教師	6	25	9	3	20	2	実技教科小計教師	2	6	3	0	3	0	5教科小計教師	4	19	6	3	17	2													
教師グループ	①読む	②書く	③問題を解く	④間違った箇所を訂正する	⑤思考・表現する	⑥読める	⑦活動する(制作・練習)	⑧その他																																																																																															
小学校通常(国語)教師	11	12	2	5	1	5	4	0																																																																																															
小学校通常(算数)教師	2	3	13	8	2	1	10	0																																																																																															
中学通常合計教師	8	15	10	4	10	13	11	1																																																																																															
実技教科小計教師	2	4	1	1	2	3	6	0																																																																																															
5教科小計教師	6	11	15	3	8	10	5	1																																																																																															
教師グループ	①一人一人コメントを記入	②段階的に評価を与える	③検印のみ	④口頭での確認	⑤授業中に確認	⑥その他																																																																																																	
小学校通常教師	3	7	10	2	9	3																																																																																																	
中学通常合計教師	6	25	9	3	20	2																																																																																																	
実技教科小計教師	2	6	3	0	3	0																																																																																																	
5教科小計教師	4	19	6	3	17	2																																																																																																	
<p>4. 小学校の国語は、「①読む」「②書く」が半数以上で、算数は「③問題を解く」「④間違った箇所を訂正する」が約6割以上になった。中学校では、教科によって内容は多岐に渡っている。</p>	<p>5. (1)小学校では、「③検印のみ」が多い。中学校では、「①一人一人コメントを記入」「②段階的に評価を与える」が約半数になった。「⑤授業中に確認」は、小と中とほぼ同じ割合であった。</p>																																																																																																						
<p>5. 宿題の確認について(2)宿題を評価に加味していますか。</p> <table border="1"> <caption>5. 宿題の確認について(2)宿題を評価に加味していますか。</caption> <thead> <tr> <th>教師グループ</th> <th>①加味している</th> <th>②どちらかというに加味している</th> <th>③どちらともいえない</th> <th>④どちらかというに加味していない</th> <th>⑤加味していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校通常教師</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学通常合計教師</td> <td>18</td> <td>14</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>実技教科小計教師</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5教科小計教師</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	教師グループ	①加味している	②どちらかというに加味している	③どちらともいえない	④どちらかというに加味していない	⑤加味していない	小学校通常教師	4	1	6	3	0	中学通常合計教師	18	14	5	3	0	実技教科小計教師	2	5	2	1	0	5教科小計教師	16	9	3	2	0	<p>5. (2)小学校と中学校では、アンケート結果に大きな違いがみられた。小学校では、「④どちらかというに加味していない」「⑤加味していない」を含めると約6割であった。中学校は、「①加味している」「②どちらかというに加味している」を含めると約7割以上であった。特に、5教科になるとその傾向が強くなった。</p>																																																																								
教師グループ	①加味している	②どちらかというに加味している	③どちらともいえない	④どちらかというに加味していない	⑤加味していない																																																																																																		
小学校通常教師	4	1	6	3	0																																																																																																		
中学通常合計教師	18	14	5	3	0																																																																																																		
実技教科小計教師	2	5	2	1	0																																																																																																		
5教科小計教師	16	9	3	2	0																																																																																																		

②質問5、6 自由記述からの抜粋(小学校・中学校 通常の学級担当)

<p>5. (3)(2)「宿題を評価に加味していますか。」の理由についてお聞かせください。 ＜小学校＞ ・1年生の担任なので、まず家庭学習の定着ができればと考えている。しかし、家庭事情によりなかなか取り組めない児童もいる。・宿題は習慣づけや学習の定着のためと考えている。評価するものは、授業中学習すべきだと思う。しかし、授業中に活動が終わらない分は、家庭学習になってしまうこともある。・児童が自分の力で宿題をしているとは限らない。限られた時間で同じ条件で活動しないと評価が公平ではないと思う。・リコーダーの技能は、家庭での継続した練習によって高まるため評</p>	<p>6. 宿題についての悩みや工夫していることがありましたら、お聞かせください。 ＜小学校＞ ・時間がかかる児童とすばやくできる児童の差が大き過ぎるため、出す宿題の量と質に困っている。・宿題の積み重ねで、家庭学習の習慣確立や基礎・基本を定着させたいと思う。しかし、積み重ねが必要な児童の中には、なかなか家庭の協力が難しく、結果的に積み重ねが難しいということがあるので悩んでいる。・音読カードは、国語の学習予定と合わせて、約3週間分前もって作成している。児童も担任も見通しが持っている。・宿題の点検・確認の時間が取れないことが大きな悩みです。</p>
---	---

働いている。

<中学校>

(国語科)・意味調べなどは、授業内で確認し、評価に入れていない。・生徒の努力を認めて評価するという点で加味しているが、塾での補助や答えの丸写し等を考慮してある程度にとどめている。(数学科)・数学への意欲として評価の対象ではあるが、様々な家庭の事情、予定があるため、「明日までに」と突然出す宿題について評価するのは難しいと思う。(社会科)・宿題という自分の時間を上手に利用して、課題をこなしているの、評価は行う。授業内という枠にとらわれずに、探究できる学習だと思う。・関心・意欲、資料活用、思考・判断の観点で評価の資料としている。(理科)・家庭学習も授業の学習の一環としてとらえているから。・全員ができると想定しているの、評価に加味することができると思っています。また、内容によって、生徒の考えや思考を測れる。・教科の特性上、実験・観察を通じて、授業を進めていくことが大切だと思う。(英語)・家庭でやったとは限らないので(前の時間の休み時間など)。・ハードルの低めものを行うことによって、学力の低い子どもを引き上げるため。・関心・意欲・態度として、入れている。きちんと宿題を行う努力を認めてあげたい。(保健・体育科)・他教科の宿題とは異なり、保健では次時の導入に使えるような内容であり、関心を引き出す工夫の一つとして、活用している。(美術科)・家庭で取り組むことなので、全面的に入れることも難しい。成績に入れる場合は事前に伝える。(音楽科)・生徒が宿題をやっている内容については、評価して認めてあげたい。(技術科・家庭科)・評価をつけるが、正しく製図できているかどうかの評価。あきらかに本人がやっていないと疑わしい場合もあるため、宿題そのものの評価を成績の資料としてはほぼ加味していない。しかし、宿題での取組がその後の授業内の作業にも反映するので、宿題で付けたい力を授業内で見取るようにしている。

毎日継続するもののみ、必ず確認している。・授業と宿題がリンクするよう配慮している。

<中学校>

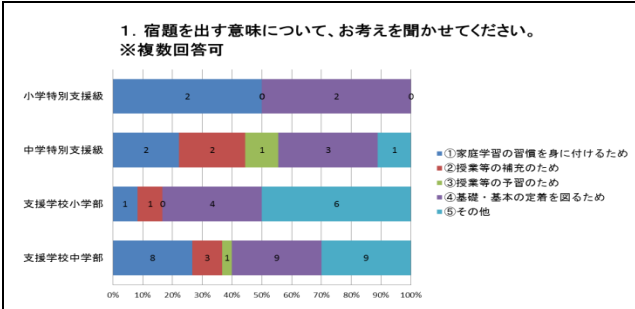
(国語科)・漢字ノートなど毎授業ごとやりたいところだが、確認する時間がなくてできていない。・できれば頻繁に出したいとは考えているが、出題方法が難しい。(数学科)・工作の課題を与えたりして、興味を持たせる(図形などで)。・宿題は強制されるものではなく、自ら進んでやるものだと思う。原則は授業内で集中して取り組ませたいと考えている。(社会科)・なるべく、宿題を出さないようにしている。家庭学習以外の学習を抱える生徒が多い。・家庭や学習塾からの支援もかなりあり、評価としてどのくらい適切か悩んでいる。・宿題を家でやっている生徒は少なく、他の授業の中でやるなど弊害がある。意欲なくやる学習に、あまり意味があるとは思えず、逆にストレスになるのではないかと。(理科)・学習塾の兼ね合いから、保護者から宿題の量について要望がある。学校全体で出す分量をある程度決めていけるとよい。(英語科)・宿題は出さない方が理想です。原則、授業中が勝負。宿題を出すなら、短い時間でできて、効果のあるものが大事であり、常に模索している。・1年生から一貫して同じ方法で行うことにより、ほぼ全員の生徒が実施できている。誰もができる内容により、学習定着の低い生徒でもでき、自信につながっている。(保健・体育科)・実技教科だからだと思いますが、授業時間で完結するような授業展開なら宿題を出さずに済む。子どもたちは、毎日超多忙です。(美術科)・授業中に終わらなかった作品を持ち帰ってやらせてしまっている時がある。保護者が手伝っている場合などの評価が難しい。(音楽科)・音楽という教科のため、自分が出していませんが、自分で勉強することができないため、課題があった方が親切な場合もある。(技術科・家庭科)・自分の力で取り組んでいるのかが分からないので、提出された課題だけをみて評価する難しさがある。

③質問紙の結果(小学校・中学校特別支援学級、特別支援学校(小・中)担当)

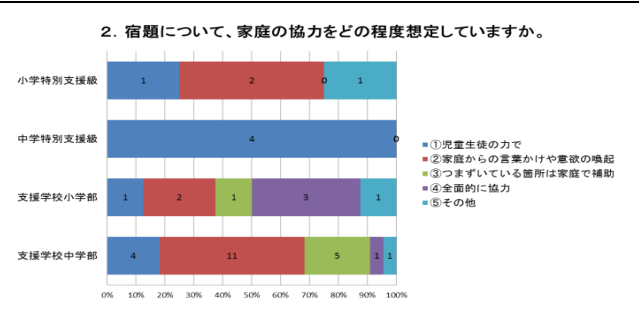
表2 小学校(n=6)・中学校(n=4) 特別支援学級担当者・

特別支援学校小学部(n=10)・中学部(n=20)担当者 アンケート結果

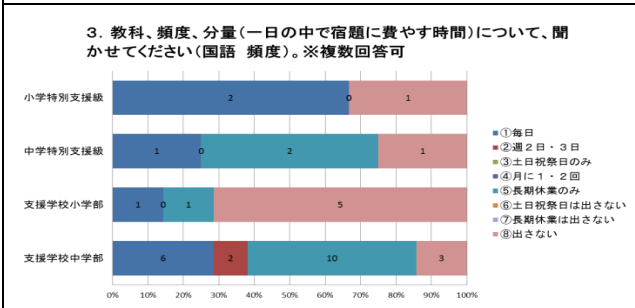
※サンプル数が少数のため、本研究において通常の学級担当者との比較検討の参考値として活用。



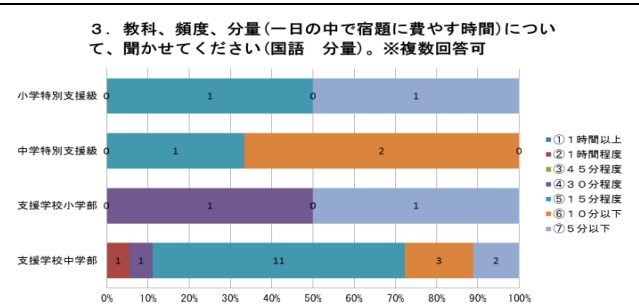
1. 小学校では、「①家庭学習の習慣を身に付けるため」と「④基礎・基本の定着を図るため」に意識が分かれた。中学校では、「②授業等の補充のため」「③授業等の予習のため」との回答もみられた。特別支援学校小・中・中学部では、その他の回答として「保護者との連携のため」や「余暇活動の一環」などの記述があった。



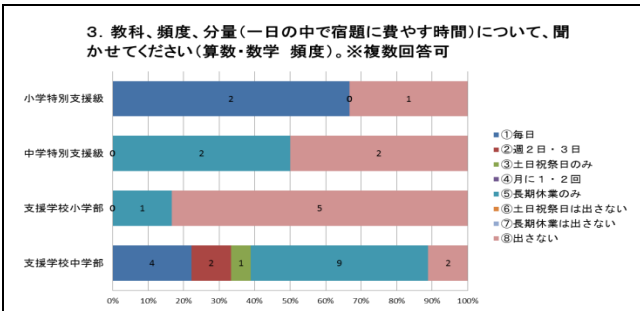
2. 小学校では、「②家庭からの言葉かけや意欲の喚起」の回答が多かったが、中学校では、すべて「①児童生徒の力で」の回答であった。特別支援学校小学部では、「④全面的に協力」が比較的多いが、中学部になると、「②家庭からの言葉かけや意欲の喚起」が増加している。



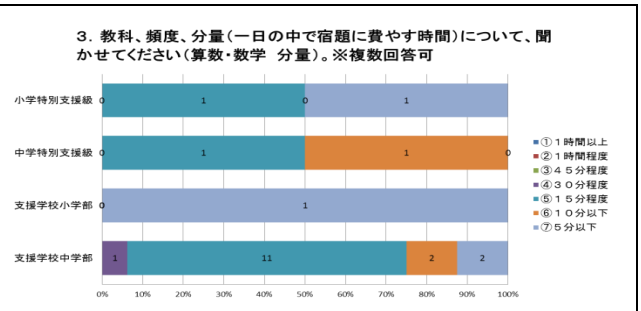
3. (国語 頻度)小学校では「①毎日」が比較的多いが、中学校では、「⑤長期休業」が増加している。特別支援学校小学部では、「⑧出さない」が多かった。また中学部では「⑤長期休業のみ」との回答が多かった。



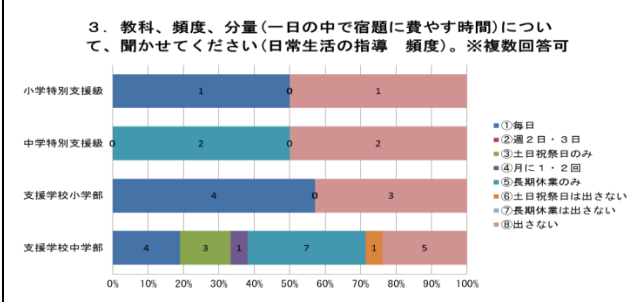
3. (国語 分量)小・中学校では、「⑤15分程度」「⑥10分以下」の短時間で取り組めるものが多いようである。特別支援学校小・中・中学部でも小・中学校と同様に、ほとんどは「⑤15分程度」「⑥10分以下」または、「⑦5分以下」との回答であった。



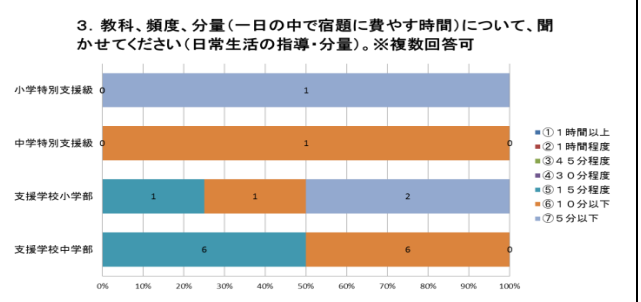
3. (算数・数学 頻度)小学校では国語と同様の結果であった。中学校では、国語と比較して「①毎日」の回答がなかった。特別支援学校小学部では、算数は「⑧出さない」の回答が多かったが、中学部になると、「①毎日」「②週2・3日」の回答もみられ、発達段階に応じた提案をしていることが推察できる。



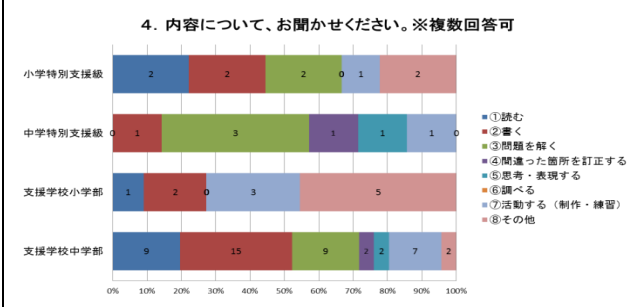
3. (算数・数学 分量)小・中学校では、国語と同様の結果であった。特別支援学校小・中学部でも、国語と同様と結果であったが、「①1時間程度」の回答がなかった。



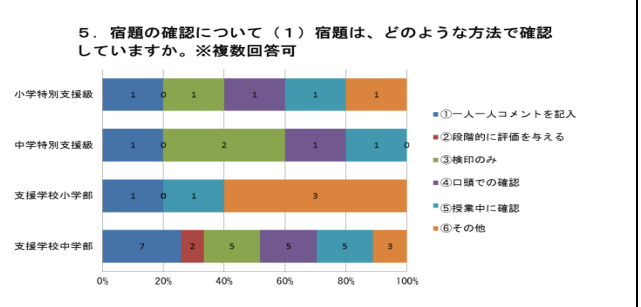
3. (日常生活の指導 頻度)小学校では「①毎日」と「⑧出さない」が半数ずつであった。中学校では「⑤長期休業のみ」と「⑧出さない」が半数ずつであった。特別支援学校小学部では、「①毎日」が「⑧出さない」よりやや多い。特別支援学校中学部では「⑤長期休業のみ」が多い。



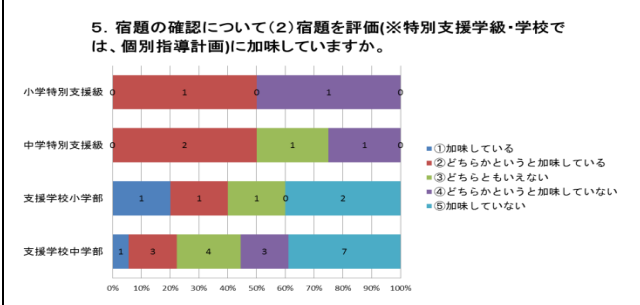
3. (日常生活の指導 分量)小・中学校、特別支援学校小・中学部ともに、「⑤15分以下」「⑥10分以下」「⑦5分以下」の短時間の回答が多かった。



4. 小学校では多岐に渡っている。中学校では「③問題を解く」「④間違った箇所を訂正する」「⑤思考・表現」など、学習の自立に関する回答が増加している。特別支援学校小学部では、小学部と比較して「②書く」活動が増加している。「⑧その他」の記述は、「家の手伝い、買い物、掃除」「排泄の習慣」などであった。



5. (1)確認方法は、すべての校種で多岐に渡っていた。「⑥その他」の回答では、「連絡帳で確認」「丸付けして、児童と一緒に宿題ファイルに穴あけして綴るのを毎日、学校の個別の時間にやっている」「保護者と面談で確認」との回答があった。



5. (2)小・中学校では、「②どちらかというに加味している」と「④どちらかというに加味していない」がほぼ半々であった。特別支援学校小・中学部では、「⑤加味していない」が多い。

④質問5、6 自由記述からの抜粋(小学校・中学校特別支援学級・特別支援学校(小・中学部)担当)

5. (3)(2)「宿題を評価に加味していますか。」の理由についてお聞かせください。
 <小学校>
 ・家庭との連携で定着の確認をしているので、評価に加味している。・家庭の協力で左右されないうところで評価をしたいと考えている。
 <中学校>
 ・授業中の評価の対象となるものが少ない場合に、加味している。・国語(個別指導)の担当でないため、毎日登校後、朝学活前まで取り組ん

6. 宿題についての悩みや工夫していることがありましたら、お聞かせください。
 <小学校>
 ・継続して行うことを家庭と相談して進めているが、どのように保護者と共通理解して取り組んでいくかが難しい。
 <中学校>
 ・毎日宿題を出してほしいと保護者から要望があった場合、宿題の準備や確認の時間の確保などに悩んでいる。・生徒一人一人に適した問

でいる。・生徒一人一人の理解度が違うので、学級全体で出す宿題は評価・評定には加えていない。

＜特別支援学校 小・中学部＞

・宿題は、家庭との連携の一つとして考えている。評価しないこともある。・個別の指導計画の目標の一部としているため、評価に加味している。・学校で取り組んだ家庭の手伝い練習などを家庭で定着させることに関しては評価できる。保護者の要望で、読み書き、計算を出しているが、目標として設定していない。・家庭の負担にならないような課題(一人でできる、ちょっとした家庭の支援で達成できるもの)を出しているため、課題として取り組んでいることは加味しても、宿題にはしていない。

題・課題づくりに悩んでいる。

＜特別支援学校 小学部＞

・日記(絵日記や写真日記)のようなものは、保護者の協力が必要になるが、夏休みや冬休みなどに実施できるとよいと思う。中学部で軽度な生徒の担当であれば、家庭でトークン形式のお手伝いなど仕事を意識するようなものをやっていた。小学部になってからは、日常生活の指導(食事、排泄、着脱等)を中心に指導しているので、特に宿題は出していない。

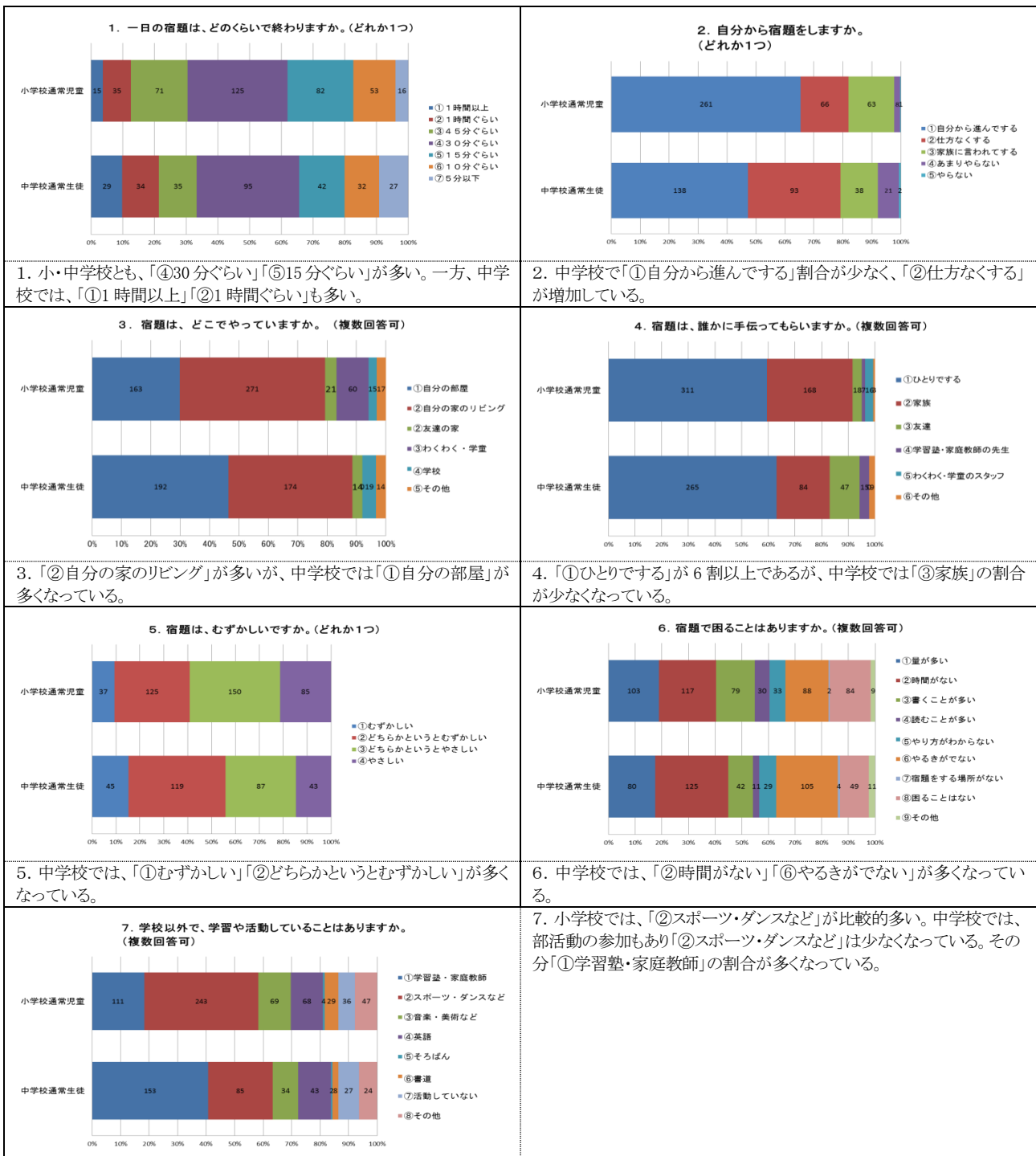
＜特別支援学校 中学部＞

・ワークシートの宿題の内容や分量は、家庭の負担にならないようにしています。書字については、苦手な生徒も多いので、原稿用紙の工夫(升目の大きなもの)にしている。

(2) 児童生徒へのアンケート

① 質問紙の結果(小学校・中学校 通常の学級 児童生徒)

表3 小学校全学年(n=397)・中学校1学年(n=294) 通常の学級 児童生徒



②質問8、9 自由記述からの抜粋(小学校・中学校 通常の学級 児童生徒)

<p>8. 今まで、楽しくできた宿題は、どんな宿題でしたか。</p> <p>＜小学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月や星の観察。・タングラム。・工作。・スケッチ。・音楽。・運動(腹筋、背筋)。・夏休みの自由研究。・うどんをゆでて食べる。・絵日記。・早寝早起き。・家の手伝い。・標語をつくる。・インタビュー など。 <p>＜中学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロスワード。・技術の製図。・美術のシンボルマーク。・制作。・自由研究。・歴史のノートまとめ。・スポーツ。・修学旅行の前日の健康観察(よく食べ、よく寝る)。・地域のインタビュー。・音楽を聴く。・調理 など。 	<p>9. どんな宿題なら、やってみたいと思いますか。</p> <p>＜小学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パズル。・PC を使う宿題。・美術の宿題。・音楽を聴く勉強。・ランニング。・縫い物。・総合。・野菜作り。・インタビュー。・調べ学習 など。 <p>＜中学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魔方陣。・美術のレタリング。・ゲーム的要素のある宿題。・自分の調べたことをノートにまとめてみる。・スポーツ。・理科の実験。・物語を書く。・自分で問題を作る。・短時間でできる宿題。・あまり難しい宿題。・大学の入試問題。・定期テストに役立つまとめ。・料理 など。
--	---

③質問紙の結果(小学校・中学校特別支援学級、特別支援学校 児童生徒)

表4 特別支援学級全児童生徒 小学校(n=7)・中学校(n=12)、特別支援学校中学部 1年生生徒(n=18)

※サンプル数が少数のため、本研究において通常の学級担当者ととの比較検討の参考値として活用。

<p>1. 一日の宿題は、どのくらいで終わりますか(どれか1つ)。</p> <p>■①1時間以上 ■②1時間ぐらい ■③45分ぐらい ■④30分ぐらい ■⑤15分ぐらい ■⑥10分ぐらい ■⑦5分以下 ■⑧長期の休みのみ ■⑨宿題はやっていない</p>	<p>2. 自分から宿題をしますか。(どれか1つ)</p> <p>■①自分から進んでする ■②仕方なくする ■③家族に言われてする ■④あまりやらない ■⑤やらない</p>
<p>1. 小学校では「⑦5分以下」が多い。中学校では、「③45分ぐらい」「②1時間ぐらい」「①1時間以上」の生徒が半数であった。特別支援学校では、「⑦5分以下」「⑧長期の休みのみ」が比較的多い。</p>	<p>2. 小学校では「①自分から進んでする」が多い。中学校になると、「②仕方なくする」「③家族に言われてする」「④あまりやらない」「⑤やらない」との回答が多い。</p>
<p>3. 宿題は、どこでやっていますか。(複数回答可)</p> <p>■①自分の部屋 ■②自分の家のリビング ■③友達の家 ■④学習塾・学童 ■⑤学校 ■⑥その他</p>	<p>4. 宿題は、誰かに手伝ってもらいますか。(複数回答可)</p> <p>■①ひとりです ■②家族 ■③友達 ■④学習塾・家庭教師の先生 ■⑤わくわく・学童のスタッフ ■⑥その他</p>
<p>3. 全校種とも「②自分の家のリビング」が多いが、中学校・特別支援学校では、「①自分の部屋」の回答も見られてくる。中学校の「⑤その他」は、「祖父母の家」「兄弟の部屋」「キッチン」などであった。</p>	<p>4. 全校種とも「②家族」が多い。中学校になると、「①ひとりです」が増えている。中学校の「⑥その他」は、「祖父母の家」「兄弟の部屋」などである。</p>
<p>5. 宿題は、むずかしいですか。(どれか1つ)</p> <p>■①むずかしい ■②どちらかというとむずかしい ■③どちらかというとやさしい ■④やさしい</p>	<p>6. 宿題で困ることはありますか。(複数回答可)</p> <p>■①量が多い ■②時間がない ■③書くことが多い ■④読むことが多い ■⑤やり方がわからない ■⑥やるきがでない ■⑦宿題をする場所がない ■⑧困ることはない ■⑨その他</p>
<p>5. 中学校では、「①むずかしい」の割合が多い。</p>	<p>6. 中学校では、「③書くことが多い」「⑦宿題をする場所がない」「②時間がない」「⑥やるきがでない」などの難しさが表れていた。</p>
<p>7. 学校以外で、学習や活動していることはありますか。(複数回答可)</p> <p>■①学習塾・家庭教師 ■②スポーツ・ダンスなど ■③音楽・美術など ■④英語 ■⑤そろばん ■⑥書道 ■⑦活動していない ■⑧その他</p>	<p>7. 中学校では、「①学習塾・家庭教師」「②スポーツ・ダンスなど」が増えている。中学校・特別支援学校の「⑧その他」は、「言語指導」「音楽療法」「放課後デイサービス」などの療育であった。</p>

⑤質問8、9 自由記述からの抜粋(小・中学校特別支援学級、特別支援学校 児童生徒)

<p>8. 今まで、楽しくできた宿題は、どんな宿題でしたか。</p> <p><小学校特別支援学級> ・いつも楽しそうに宿題をしています(特に「50音」を書くプリント)。 ・スポーツ。 ・漢字練習。 ・自由研究。</p> <p><中学校特別支援学級> ・中1の通信教材。 ・漢字練習。 ・国語の読解。 ・計算。</p> <p><特別支援学校 中学部1年生> ・日記。 ・こいのぼりや好きな絵の塗り絵。 ・得意分野。 ・自信を持ってできるプリント。 ・自分一人で行ける問題で、5から10分ぐらいで終わる量なら自発的にできる。 ・頼んだことも喜んで手伝いをしてくれます。 ・書道。 ・家でのお手伝い(自分の靴ならべ、食後のお皿運び)。 ・足し算の筆算や日記。</p>	<p>9. どんな宿題なら、やってみたいと思いますか。</p> <p><小学校特別支援学級> ・図工。 ・音読。 ・足し算。 ・引き算。</p> <p><中学校特別支援学級> ・チャレンジ。 ・家の手伝い。 ・ゲームに出てくるキャラクターが出てくる宿題。 ・社会。 ・ザリガニとり。 ・漢字。 ・体育。</p> <p><特別支援学校 中学部1年生> ・幼児向けのドリル。 ・簡単な国語プリント。 ・字を書く。 ・何でも楽しく取り組んでいます。 ・絵を書くこと。 ・音読(ひらがな)は大好き。 ・本(絵本)を読む。 ・ひらがなを書く。 ・生活する上でできたらよいと思う動作・役割。 ・将来の本人の自立の基礎になるような日常生活のこと。 ・生活に関係する文章題。</p>
--	---

3 宿題の実践研究

(1) 対象学級及び児童

市内小学校第3学年 児童30名

(2) 宿題の内容及び研究仮説

学校教育でこれまでも行われている授業づくり(授業力向上・授業のユニバーサルデザイン化)を前提に、取り組みやすい宿題の在り方とその可能性について検討した。対象学級では、ほぼ毎日国語と算数の宿題を課している。「音読カード」「漢字ノート」「算数プリント(B4版)」を提示することが多い。そこで、本研究では「授業とつながりのある宿題(導入と展開時)」を提案し、日頃取り組んでいる宿題(音読、漢字練習、計算)と比較し、児童の取組や意識の変化について、児童へのアンケートや学級担任による児童の印象で分析した(図2)。

本研究会議では、単元計画上に宿題を位置づけ、「学びの多様性を踏まえ、授業と家庭のつながりを見直すことで、児童生徒が学習のめあてや見通しを持ち、宿題に取り組みやすくなる。」と仮説を立てた。

<研究仮説> 学びの多様性を踏まえ、授業と家庭のつながりを見直すことで、児童生徒が学習のめあてや見通しを持ち、宿題に取り組みやすくなる。



図2 国語・算数の宿題を使った授業の様子(導入)と児童へのアンケート回答の様子

(3) 支援が必要と思われる児童について

対象学級内で、特別支援または家庭支援が必要と思われる児童(A児、B児、C児、D児、E児)のアンケート結果から抽出して分析した(表5)。

表5 対象学級で特別支援または家庭支援が必要と思われる児童(A児、B児、C児、D児、E児)について

	特別支援	家庭支援
A児	興味があることには夢中になるが、それ以外のことには意欲が持ちにくい。	ひとり親家庭、保護家庭。母親は仕事で帰宅が遅いので、A児が夕食を作って待っている。
B児	学習の理解力は弱い、学習活動には意欲的で発言も多い。	ひとり親家庭。母親は仕事で忙しく帰宅が遅い。子どものことには熱心。習い事に参加している。
C児	語彙が少なく、言語理解力が弱い。九九が未定着。	母親は未就学の弟の世話で忙しい。母親には反抗的な態度をとることもある。学習塾に通っている。
D児	学習の理解力は弱い。穏やかな性格で周囲から好かれているが、自分の気持ちを表現することが少ないため、同学年の友達はあまりいない。	生活保護家庭。習い事はしていない。
E児	学習の理解力が弱く不器用である。通信教育を利用した家庭学習は祖母にみてもらっている。	ひとり親家庭。祖父母と同居。母親は忙しいが、祖母にみてもらいながら、複数の習い事に参加している。

(4) 児童へのアンケート ※網掛けは、質問紙の内容を表記。

<p>Q1 自分から進んで宿題をしましたか。(どれか一つ)*主体性 ①じぶんからすすんで ②しかたなく ③かぞくにいわれて ④あまり気が進まない ⑤気が進まない</p> <p>Q2 この宿題は、だれかに手つだってもらいますか。(複数回答可)*協同性 ①ひとりで ②家族と ③友達と ④学習塾・家庭教師の先生 ⑤わくわく・学童のスタッフ ⑥インターネットで調べた ⑦その他</p> <p>Q3 この宿題は、どのくらいの時間で終わりましたか。*時間 ①1時間いじょう ②1時間ぐらい ③45分ぐらい ④30分ぐらい ⑤15分ぐらい ⑥10分ぐらい ⑦5分以下</p> <p>Q4 この宿題は、やりやすかったですか。(どれか一つ)*取り組みやすさ ①とてもやりやすい ②やりやすい ③どちらでもない ④あまりやりやすすくない ⑤やりやすすくない</p> <p>Q5 この宿題をやったら、授業がわかりやすくなると思いますか。(どれか一つ)*授業とのつながり ①とてもよくわかった ②よくわかった ③どちらでもない ④あまりよくわからない ⑤よくわからない</p> <p>Q6 この宿題は、自分の役に立つと思いましたか。(どれか一つ)*自分の将来とのつながり ①とても役に立つ ②役に立つ ③どちらでもない ④あまり役に立たない ⑤役に立たない</p> <p><理由を書いてください(自由記述)></p>

(5) 学級担任による児童の印象

(6) 単元計画と宿題

<国語>単元「すがたをかえる大豆」

※評価基準と評価方法は省略した。

次	時	学習活動	指導上の留意点	宿題の題材
一次	1	<ul style="list-style-type: none"> 大豆を使った食品について考える。 「すがたをかえる大豆」を通読しておおまかな内容を捉える。 学習課題を確かめ、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大豆を使った食品の写真を見せて、大豆についてイメージをもたせる。 食品を手がかりに、内容の大体を読ませる。 言語活動までの見通しをもたせる。 	<p>「きな粉パンと冷奴は、何からできているか」(導入)</p> <p><研究仮説を踏まえた手だて> A5 ワークシート使用。カラー印刷で視覚的に課題を把握しやすいように工夫。書くことより、思考力や問題解決能力を大切にしたい。主体性と協働性。インターネットの活用も勧めた。また、週末の課題として時間を与えた。</p>
二次	2 3 4	せつめいのくふうを見つけよう。		
		<ul style="list-style-type: none"> 段落分けを確かめ、文章全体の組み立てを捉える。 「初め」と「終わり」を読んで内容を確かめる。 「問い」がないことについて考え、「初め」の役割と文章全体の話題を捉える。 事例や言葉に注意して「中」を詳しく読み、内容をまとめる。 事例の説明の順番を考えたり、音読を通して中心文を捉えたりして、詳しく読む。 写真の使い方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの段落に出てくる食品をまとめ、「初め」「中」「終わり」に分ける。 「問い」について考えることで、文章全体の話題を適切に捉えて読み進めさせる。 大豆を加工するときに使われる言葉に注意しながら、各段落でどんな工夫が書いてあるかを捉えさせる。 事例を挙げる順番も文章の工夫であることを捉えさせる。 P38「絵や写真を使ってせつめいする」を読んで、写真の使い方方を整理させる。 	<p>「いたり、にたり、こなにしたりと、大豆のように姿がかわる食品をさがしてみよう」</p> <p><研究仮説を踏まえた手だて> 三次「食べ物のヒミツを教えます。」の作文を書くための構想を考えてくる。</p>
三次	5	せつめいのくふうを話し合おう。		
		<ul style="list-style-type: none"> 「すがたをかえる大豆」の説明の工夫を話し合ってまとめる。 ほかの食べ物を扱った本の内容や説明の工夫について感想を話す。 単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ここまで文章を読んで考えてきた工夫を、グループで話し合いながらまとめる。 「すがたをかえる大豆」で行われていた説明の工夫を参考にさせる。 	

<算数>単元「三角形」

時	学習活動	指導上の留意点	宿題の題材
1 2	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形、正三角形の意味を理解する。 4種類の長さのストローを用いていろいろな三角形を作り、辺の長さに着目して分類する。 二等辺三角形、正三角形について知る。 三角形の3辺の長さのコンパスを用いて調べ、正三角形であることを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4種類の長さのストローを用いていろいろな三角形を作る宿題を事前に出しておく。 辺の長さを見て仲間分けすることを全体で確認する。 	<p>「家でいろいろな三角形を作ってみよう」(導入)</p> <p><研究仮説を踏まえた手だて> ストローとモールを配布(4色×3本、モール12本 1セット)して、算数的思考を高めることを大切にしたい。導入部分の三角形を作る活動を家庭学習にしたことで、その次の時間の三角形を較べる活動につなげた。また、週末の課題として時間を与えた。</p>

3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形の作図、正三角形の作図のしかたを理解する。 ドットの図で、あと1点をどこにとると二等辺三角形になるかを考え、二等辺三角形の作図の素地となる経験をする。 定規とコンパスを用いた二等辺三角形の作図のしかたを考える。 二等辺三角形の作図のしかたをもとに、正三角形の作図のしかたを考える。 二等辺三角形、正三角形の辺の相等関係について理解を深める。 円の半径を使って三角形を作図したり、折り紙を用いて二等辺三角形と正三角形を作ったりする活動に取り組み、なぜ二等辺三角形や正三角形ができるのか説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形の定義を想起させる。 既習の長さを写し取るコンパスの機能を想起させる。 コンパスの使い方を振り返らせる。 	
6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> 図形の角の意味、性質について理解する。 三角定規の角の大きさを比べることを通して、角の意味、角の大きさについて知る。 二等辺三角形、正三角形の角の相等関係について理解する。 角を重ね合わせて比べることを通して、二等辺三角形は2つの角の大きさが等しく、正三角形は3つの角の大きさが等しくなっていることを知る。 二等辺三角形、正三角形による敷き詰め模様の構成、観察を通して、図形についての感覚を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角定規の角を紙に写し取り、直角とぴったり重なる角を調べさせる。 直角の意味を振り返らせる。 折り紙を用いて、直角角の大きさを比較させる。 それぞれの角に記号を付けて比較しやすくする。 	<p>「二等辺三角形、正三角形の物を身の回りから探してみよう。」</p> <p><研究仮説を踏まえた手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で確認した二等辺三角形、正三角形の特徴を日常生活に戻して、学習内容の振り返りと定着を図る。
9	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習内容の理解を確認し、定着を図る。 単元のまとめをする。 		

4 宿題の実践研究(結果)

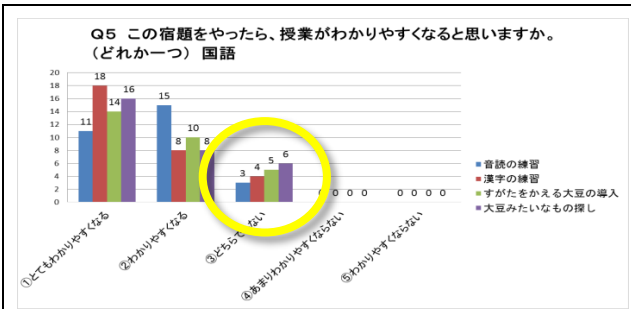
(1) 児童へのアンケート結果

① 児童へのアンケート結果(質問紙)

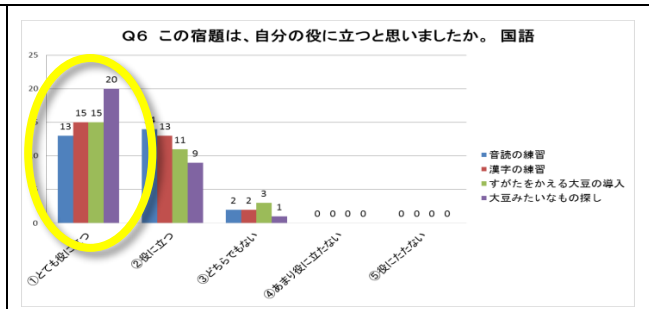
「授業と宿題のつながりと学び方の多様性や家庭環境等に配慮した宿題(導入と展開時)」を提案し、日頃取り組んでいる宿題(音読、漢字練習、計算)とを比較・分析した(表6)。

表6 宿題の実践研究 アンケート結果 国語 (n=30)

<p>Q1. 自分からすすんで宿題をしましたか。(どれか一つ) 国語</p>	<p>Q2. この宿題は、だれかに手つだってもらいましたか。(複数回答可) 国語</p>
<p>Q1. 授業とつながる宿題は、音読より「①自分からすすんで」が多い。</p>	<p>Q2. 授業とつながる宿題では、誰かに相談したり、インターネットで調べたりして取り組む様子も見られる。</p>
<p>Q3. この宿題は、どのくらいの時間で終わりましたか。国語</p>	<p>Q4. この宿題は、やりやすかったですか。(どれか一つ) 国語</p>
<p>Q3. 授業とつながる宿題は、「⑥10分ぐらい」「⑦5分いか」が多い。</p>	<p>Q4. 授業とつながる宿題では、「①とてもやりやすい」「②やりやすい」が多い。</p>

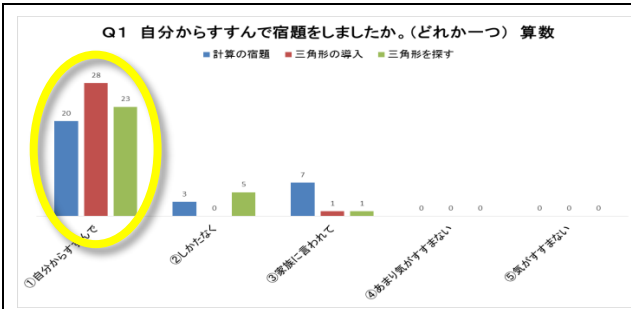


Q5. 授業とつながりのある宿題で、「③どちらでもない」がやや多い。

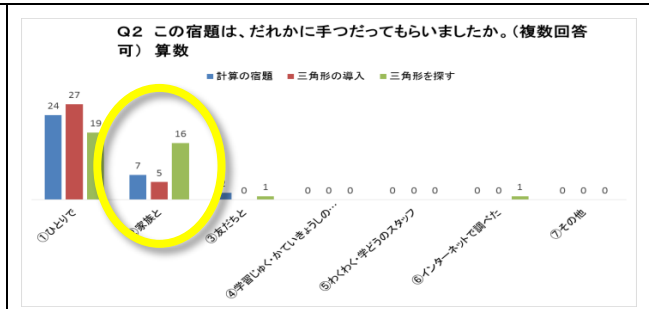


Q6. 大豆みたいなものの探しの宿題で、「①とても役に立つ」が多い。

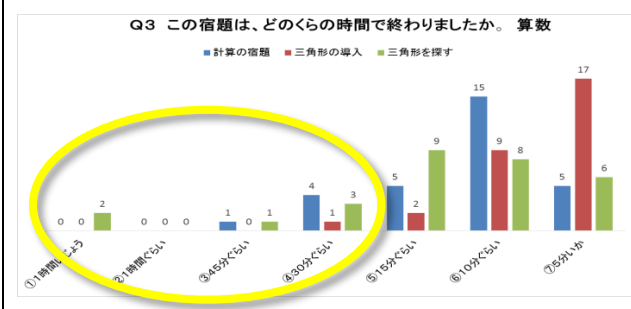
表7 宿題の実践研究 アンケート結果 算数 (n=30)



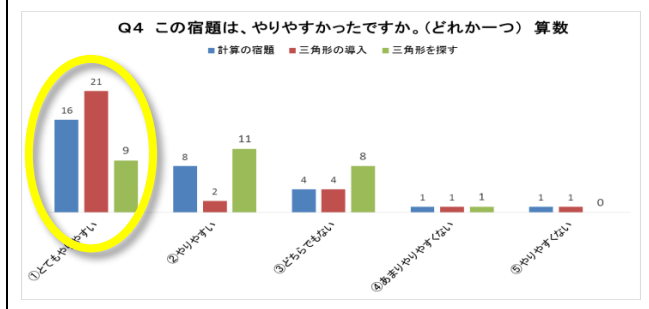
Q1. 授業とつながる宿題で、「①自分からすすんで」がやや多い。



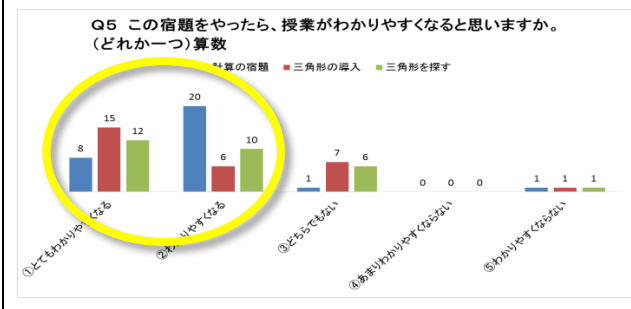
Q2. 三角形を探す宿題で「②家族と」が多い。



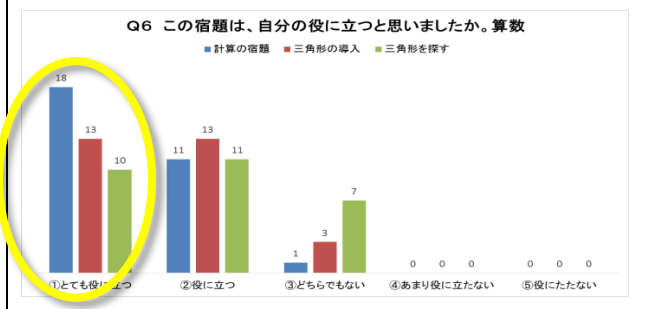
Q3. 三角形を探す宿題で、多くの時間をかけている。



Q4. 三角形の導入の宿題で「①とてもやりやすい」が多い。



Q5. 三角形の導入で「①とてもわかりやすくなる」が多い。



Q6. 計算の宿題で「①とても役に立つ」が多い。

② Q6 「この宿題は、自分の役に立つと思いましたか。その理由を書きなさい。」自由記述からの抜粋
 児童からの記述を「(どちらかという)役に立つ」「(どちらかという)役に立たない」に分類して整理した。
 ※原文のひらがな表記を漢字表記で記載した。

(どちらかという)役に立つ	(どちらかという)役に立たない
<p><音読の宿題>・読む力がついて将来や授業で読むときに胸をはって読めるから。・声の大きさや読む能力がアップするから。・相手に聞きやすく話せるようになるから。・音読をやると、教科書の文もスラスラ読めるようになると思います。</p> <p><漢字の宿題>・おおきくなった時に漢字を忘れないから。・漢字を家で復習すると、学校でやっただけでは覚えられないから、復習するとずっと覚えられるから。・書く力がつくし漢字を覚えられるから。</p> <p><すがたをかえる大豆の導入>・宿題をやった後の授業が楽しかった。・教科書で勉強することを先にできるから。・豆腐が何からできているのかが分からなかったけど、インターネットで調べてわかった。・自分の考えと友達のを比べたら、友達の考えもわかるから。・自分の身近にあるものの材料を考えることなんてあまりない</p>	<p><音読の宿題>回答記述なし</p> <p><漢字の宿題>・漢字を何度も書くから。</p> <p><すがたをかえる大豆の導入>・教科書に書いてあるから。すぐに答えがわかるから。・授業であまり使わないと思うから。・ふつうに豆腐と黄粉の材料を書くだけだから。・宿題が少しだけだったから。・教科書にちょっと書いてあるから、教科書を見ればよい。・2つしか質問がなかったから。</p>

<p>と思うし、身近にあるものの材料がわかるから役に立つと思う。</p> <p><大豆みたいなもの探し>・授業の時に、先生に「いっぱい書いたね」と言われて嬉しかったから。・この宿題をやると「食べ物のヒミツを教えます」という授業の時に悩まずにできると思う。・大豆のことは教科書を見てわかったけれど、この宿題は頭を使って考えたいから役に立つと思う。・次の授業のためになるし、ふだん気にしなかったことを調べられたから、とても役に立つと思う。・宿題はやりにくかったけど、いつも意識しないことも意識できたから。・授業のまえに、ゆっくり調べられたから。</p>	<p><大豆みたいなもの探し>・あまり授業に関係ないと思ったから。・簡単だし見つけるのはお母さんに聞けばわかるから。</p>
<p><計算の宿題>・将来、大人になったら役に立つ。・わからない問題が解けて勉強になるから。・あまり授業で意味がわからなくても、宿題をやるとすぐわかったから役に立つと思った。・算ブリをすると分数とかいろいろ身に付いて頭がよくなるかもしれないから。・宿題をやると分数や足し算などを覚えられるから。・大人になってから、そういう問題が出た時に、計算が早くなるし答えがすぐ出てくるようになるからいいと思う。・宿題は人のためになるのではなく自分のためになるから役に立つと思いました。</p>	<p><計算の宿題>・もう公文でやっていて、知っているから。</p>
<p><三角形の導入>・授業の時に自分で作っておくと図みたくいになって形がわかるから、役に立つと思う。・とても役に立つと思う。三角形がいろいろあるのがわかったりするから。・二年生の時やってそれ以来やっていなかったから、辺とか直角とかを思い出すことができた。・授業中に自分で動かせるから。・算数の三角形の仕組みもわかるし、図工の工作みたいだから。一石二鳥。・三角形の宿題で予習ができて、今日やった宿題を使うから、とても役に立つ。・わからない時に(家族が)教えてくれそうでわかりやすくなった。・時間が15分かかった。難しいものをやったほうが勉強になるから。・授業が少し面白くなるから。</p>	<p><三角形の導入>・どこが辺とか書いてないから。・三角形を作るだけだから、どちらでもない(どっちでもいい)。・三角形の見本だけじゃ、あまりわからなくて役に立たないと思う。・この宿題は簡単だったから、やってもやらなくてもいいと思った。・三角形をつくる時、図工の工作になっているから、どちらでもないにした。</p>
<p><三角形を探す>・正三角形はどんな形とか二等辺三角形はどんな形かを振り返って探せたから。・身近な物がこんなに三角形だったと気が付いたから。・授業でやったことを確認できたから。・宿題をやれば、もっと授業がわかるようになると思う。・身近な物で二等辺三角形や正三角形を探して授業で確かめにもなるから役にたつと思う。・正三角形の物を探して、いろんなところに注目できたから。・身の回りに正三角形や二等辺三角形はいっぱいあったから。・三角形のものを考えられたから(アポロのこと)。・二等辺三角形や正三角形の特徴がわかりやすくなるから。</p>	<p><三角形を探す>・正三角形や二等辺三角形を見つけるのは大変だったから。・あまり見つけてもやくに立たないと思う。・授業に関係ないとおもった。・見つけるだけだから。・ハンガーとかは持ってこれないから。・探すのが少し難しいからやりにくかった。・さがしてくるだけだから。・授業でその探したものをつかわないから。・簡単だから。</p>

(2) 学級担任による児童の印象

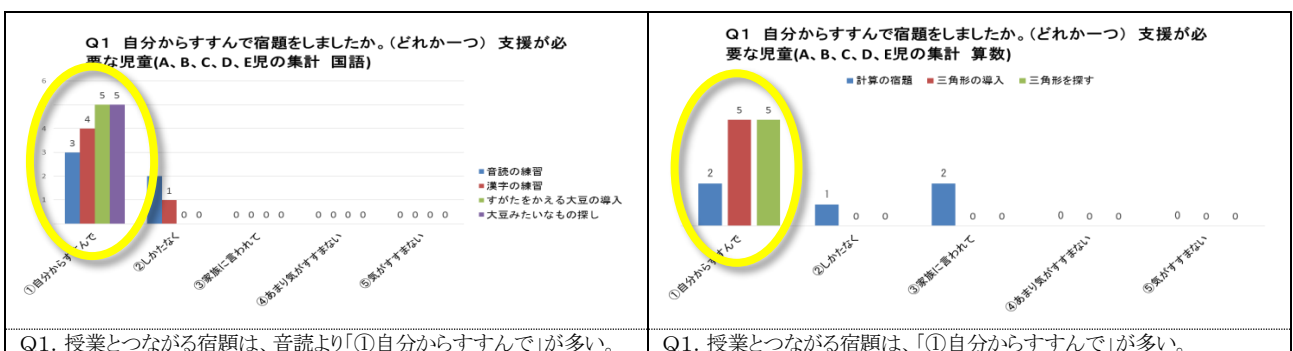
今回の宿題を出した時、子どもたちはやる気を持って宿題を持ち帰っていった。授業の日は、口々に「宿題できたよ!」「自分でやった!」と会話を交わし、嬉しそうな様子が見られた。宿題で取り組んできたことが授業の中で取り上げられると、発表したくて仕方がないような、自信に満ちた姿もみられた。自分のやってきたことが活かされるので、宿題に対して喜びややりがい、新たな学習への期待感をもっている子どもたちが多かったように感じられた。

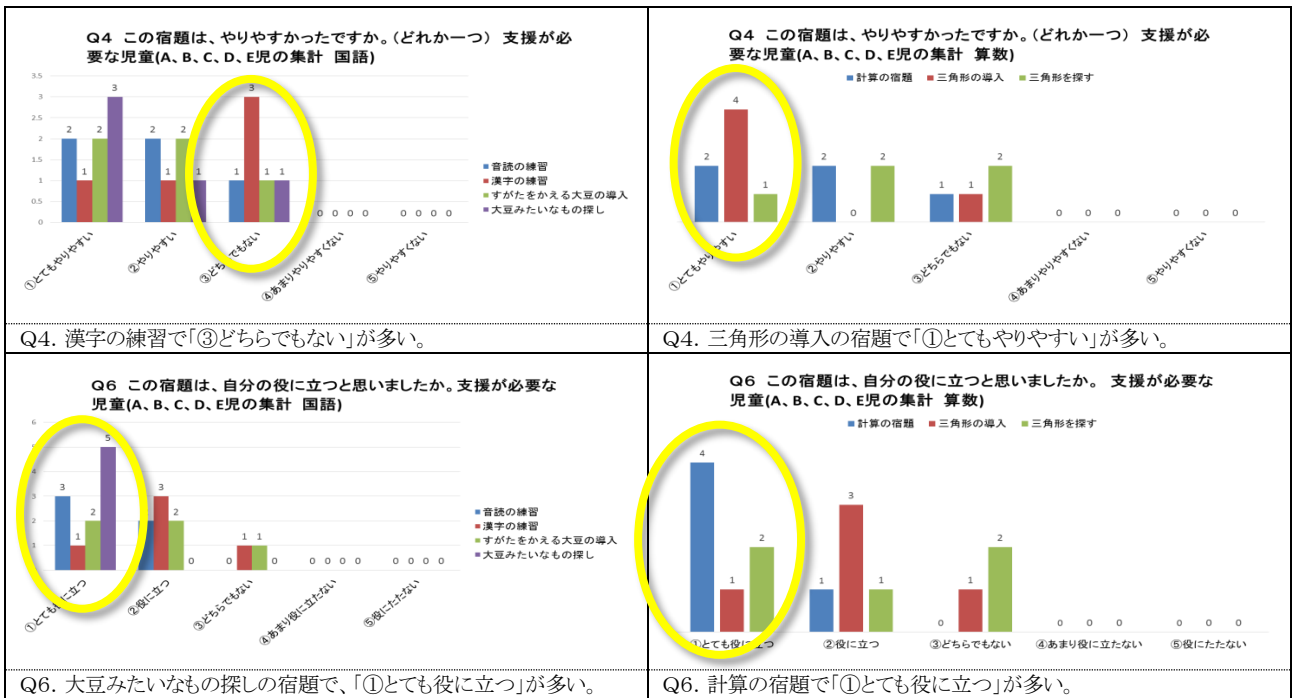
(3) 支援が必要と思われる児童について

児童へのアンケート(表6)の中から、特別支援または家庭支援が必要と思われる児童(A児、B児、C児、D児、E児)のアンケート結果を抽出して分析した(表7)。

特に「Q1 自分からすすんで宿題をしましたか。」「Q4 この宿題は、やりやすかったですか」「Q6 この宿題は、自分の役に立つと思いましたか。」の国語と算数の結果について検証した。「学級全体の結果」と「支援が必要と思われる児童の結果」は、ほぼ同じ傾向がみられた。

表7 支援が必要な児童(A、B、C、D、E児)の集計 国語・算数の抽出 (n=5)





Ⅲ 研究のまとめ

1 アンケートによる実態調査からわかったこと

(1) 教師へのアンケートからわかったこと

教師へのアンケート結果から、宿題の現状と課題を整理すると以下ようになった。

<現状>・短時間で反復的・補充的・継続的に積み重ねる学習には、宿題が有効である(取り組みやすさと継続性)・生活のリズムづくりや余暇活動の一つになる。・同じ形式の宿題を繰り返し取り組むことで、誰もが取り組めるようになる。・学習のつまずきのある児童生徒への指導・支援として活用できる。・授業とのつながりを意識している教師も少なくない。

<課題>・宿題の準備と確認時間の確保。・授業が中心だが授業で終わらない分を宿題にしてしまうことがある。・児童生徒の成果をどのように見取るか(宿題の準備と確認の時間の確保)・学習につまずきのある児童生徒への宿題の在り方。・家庭の協力と児童生徒の努力や態度をどの程度、学習評価に加味するべきか。・保護者の協力が得にくい児童生徒への支援・配慮をどのように考えていくか。・保護者の宿題への要望(宿題の量や頻度等について)・学習塾や習い事で忙しいこと。

宿題は、教師にとって多くの意味を持っていることがわかった。それぞれの意味は、並列しているのではなく、階層性を持っているのではないだろうか。児童生徒の学習指導の中心は、授業である。家庭学習における予習や復習は、学習サイクルを習慣化させ、授業で学習したことを深化させることができる。また、授業で学習したことを定着させるために、「授業等の補充」「基礎・基本の定着を図ること」が副次的に行われている。整理すると「宿題は、本来授業を中心にした学習習慣の形成の手だての一つ」と考えることができる。つまり、小学校段階では、家庭の協力を得ながら短時間で反復的・補充的・継続的に取り組む宿題を中心にして一定の学習習慣を養うことを目指す。中学校段階では、主体的かつ計画的に学習に取り組む予習的な宿題を課すことも増え、学習成果だけでなく姿勢や態度についても積極的に評価を与えることで、宿題を効果的に活用しながら家庭学習の習慣を身に付け、学習意欲を高めることを目指す。特別支援学級・特別支援学校の教師へのアンケートには、「宿題は家庭との連携の一つ」であり、「余暇をどう過ごすか」について幾つかの意見があった。このことは、児童生徒が「自立的な生活習慣を身に付けること」につながり、通常の学級での「家庭学習の習慣を身に付け、学習意欲を育てる」こととほぼ同じねらいであるといえる。

(2) 児童生徒へのアンケートからわかったこと

通常の学級 児童生徒へのアンケート「Q2 自分から宿題をしますか」で、小学校「①自分から進んでする」の回答が多いが、中学校では「仕方なくする」が多くなった。また、「Q4 誰かに手伝ってもらいますか」では、小学校では「②家族」が約3割であるが、中学校では割合が少なくなり、学習の自立

が一定程度は進んでいると解釈することができた。

「Q6 宿題で困ることはありますか」では、中学校では「①量が多い」「②時間がない」「⑥やるきがない」が多くなっている。また、「Q7 学校以外で、学習や活動していることはありますか」では、小学校で「②スポーツ・ダンスなど」が多かったが、中学校では「①学習塾・家庭教師」が増加している。これらのことから、限られた放課後の時間の中で、児童生徒は様々な活動に参加しながら時間の使い方に苦慮していることが推察された。

特別支援学級、特別支援学校の児童生徒では、校種や学年によって大きな違いが見られた。質問8、9の自由記述から、全般的には児童生徒の自立に向けて日常生活に近い課題や生活に関連がある学習課題に取り組み、小学部から中学部に上がるにつれて、自立や就労を意識した課題が多くなっていた。

児童生徒へのアンケート結果から、宿題の現状と課題を整理すると以下のようになった。

＜現状＞・自分から進んで取り組んでいるが、学年が上がるに連れて学習意欲がやや減少傾向になる。・日常生活に近い学習は、児童生徒の興味・関心を引き付けやすい。＜課題＞・児童生徒は、塾や習い事などで忙しい。

2 宿題の実践研究からわかったこと

(1) 学びの多様性を保障する

アンケート結果の国語「Q1 自分から進んで宿題をしましたか」では、授業とつながりのある宿題で、「①じぶんからすすんで」が多く、「②しかたなく」「③家族に言われて」が少なかった。同様に「Q6 この宿題は自分の役に立つとおもいましたか」でも「①とても役に立つ」が多い結果になった。この結果から、単元の導入場面で児童生徒の興味を引き出し、「なぜだろう」「やってみたい」という学習意欲を一定程度引き出したと考えられる。また、授業とつながりのある宿題を提案する際に、

- ・＜時間の保障＞ 考えたり、調べたり、書いたりする時間を保障した(金曜日に宿題を提案し、授業は火曜日に実施など)。
- ・＜協働性を広げる＞ 誰に聞いても、どのように調べてもよい(家族、友達等に聞く、インターネットで調べるなど)。

の2点を伝えたことも、取組の手立てとして学び方の多様性を保障することにつながったと思われる。

(2) 授業と家庭のつながり

アンケート結果の算数 Q6「この宿題は自分の役に立つとおもいましたか」では、三角形を探す宿題では「③どちらでもない」の割合がやや多かった。これは、授業の中で宿題のめあてや学習の見通しについて指導が十分に行えなかったため、また宿題を授業の中で十分に活用できなかったため、学習意欲の高まりや授業の達成感が十分に得られなかったことが主な要因ではないかと考えられる。

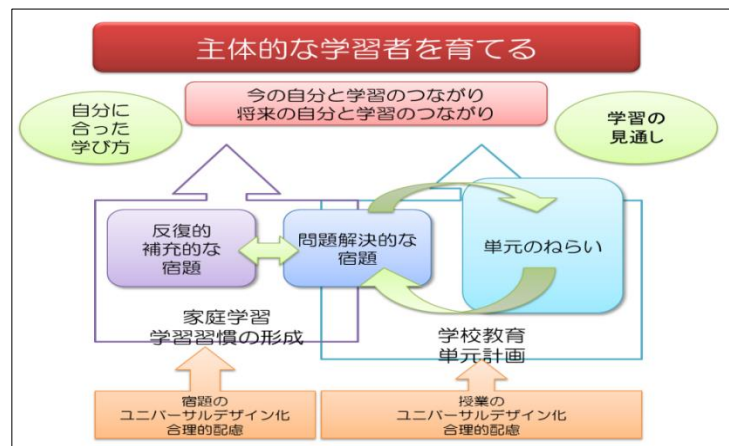


図3 授業と家庭のつながり

つまり、授業(教室)と宿題(家庭)を切り離して考えるのではなく、連続性を持って単元づくりを行うことで、それぞれの学びの場が持つ良さを活かし学習の見通しを持ち、自分に合った学び方で宿題に取り組むことができる。そして、宿題の成果を授業の中で積極的に活用することで、児童生徒への学習評価と達成感と成就感を与えることができるのではないかと推察された。例えば、授業のユニバーサルデザイン化を活かして単元を構成し、単元の導入や学びを深めるための「問題解決的な宿題」と音読・漢字練習・計算練習等の「反復的・補足的な宿題」とが有機的につながることによって、児童生徒が自分に合った学び方で学習の見通しを持ち、学習に取り組み、主体的な学習者を育てることにつながるのではないかと考えた(図3)。授業と家庭のつながりを宿題で考えていくと、次の3点が考えられた。

1. 授業のユニバーサルデザイン化の視点を活かした授業づくりを児童生徒の学習の中心に位置付ける。
2. 「学校」と「家庭」で学ぶことを切り離して考えるのではなく、それぞれの良さを活かして連続性を持った単元計画をしていく。
3. 単元の中で「問題解決的な宿題」と「反復的・補足的な宿題」を有機的につなげていく(学び方の多様性と見通し)。

3 結果及び考察

(1) 宿題のアクセシビリティとバリア

研究の結果から、児童生徒が宿題に取り組む際のバリアについて、国際生活機能分類⁴を参考にして、心身機能・身体機能、個人因子と環境因子に分けて整理した。

例えば、発達障害等があり心身機能・身体機能で困難さがある場合、宿題への活動上のバリアになり、授業についていけないことや進路実現が困難といった社会参加が阻害されることになる(図4)。しかし、障害の有無に関わらず宿題を取り巻く環境因子に多様性を持たせることで、宿題の取組という活動が部分的制約に変わり、参加が促進されることが考えられる。例えば、宿題は、理解したり、考えたりしたことを「書いて提出」することが多い。特に、書字に困難さを抱えている児童生徒にとっては、「書いて提出」することは大きなバリアになりかねない。児童生徒が家庭で考えたり調べたりしたことを、授業中に説明させたり、絵に描いたり、操作したり、写真で撮ったものを見せたり

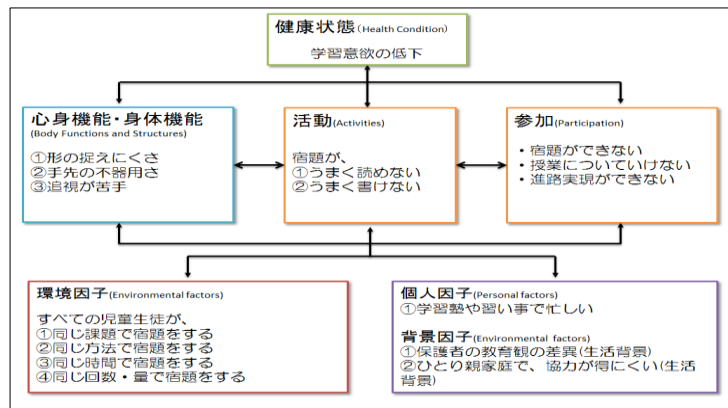


図4 読み書き困難のある児童生徒の宿題のバリア

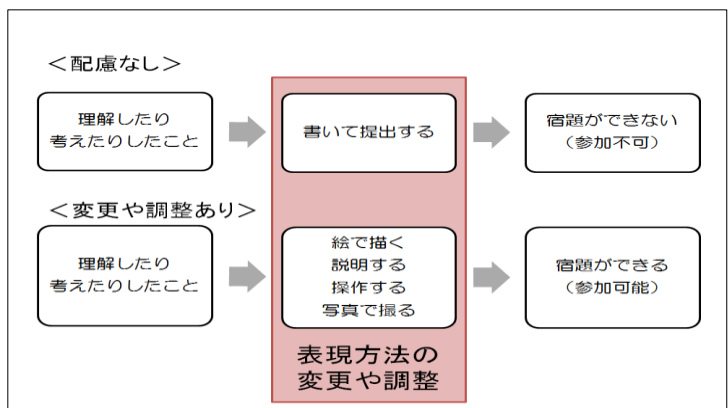


図5 宿題における表現方法の調整や変更

するなど、環境因子の中の表現方法を工夫することにより、宿題に取り組むことができ(活動)、学習活動に積極的に参加できるようになると考えられる(図5)。

これらの環境因子の調整や変更は、学習評価上の公平さや平等さの点から教師が宿題を提案する際のバリアとなっていることもアンケート調査から明らかになった。教師の中に、「宿題は学級の児童生徒全員に同じ内容を課すことが望ましい。」という指導観があるが、一方で、同じ内容・同じ表現方法で取り組むことで児童生徒の学習意欲や学力が伸びると考えている教師は少ないと思われた。

山森(2010)は、「本来は、一人でする宿題にこそ、個人差を考慮した題材を渡す必要がある。とはいえ、現実的にすべての(児童)生徒それぞれにあった宿題を課すことは難しいと思う。(児童)生徒の理解度に応じて4・5通りに出しわけたり、重要な内容の時だけ出しわけたりしても良い。」⁵と述べている。

(2) 家庭学習の習慣を身に付け、主体的な学習者を育てる

特別支援教育に求められる視点として、「障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する。」⁶が挙げられている。この視点は、児童生徒が学齢期や青年期をどのように豊かに過ごしていくか、具体的な育ちの姿としてイメージしたキャリア発達を教育の柱にしている。

しかし、特別支援教育に限らず学校教育全体でも同様に、児童生徒に家庭学習の習慣を身に付けさせ、主体的な学習者となってほしいと教師は願っているのではないだろうか。そのためには、学校は、家庭、地域等と連携しながらすべての児童生徒の能力を最大限に引き出し、児童生徒が主体的・継続的に学習に取り組む姿勢をイメージしたキャリア発達を教育の柱にしていかなければならない。

⁴ ICF(International Classification of Functioning, Disability and Health,国際生活機能分類)は、2001年5月にWHO総会で採択された新しい障害観で、障害を身体機能のみで捉えるのではなく、社会参加や活動との相互作用によって生じる社会的不利とした。

⁵ 国立教育政策研究所主任研究官。Benesse教育研究開発センター「VIEW21 中学版 2010 vol.4」ベネッセ教育総合研究所編 pp5より一部修正して引用。

⁶ 「特別支援教育に関する中央教育審議会答申」文部科学省 平成17年12月。

本研究会議では、アンケートの実態把握や自由記述から、児童生徒の学習意欲の向上や学習習慣の形成においては、「①自分の日常生活とのつながり（学習の興味や意欲を引き出す）。」と、「②自分の将来とのつながり（学習の自立心を育てる）。」が重要である。つまり、就学後の家庭学習が始まる小学校低学年の段階は、「日常生活とのつながり」を大切にしながら意欲を高め、短時間で継続的に取り組む宿題で、規則的な学習習慣に繋げていく。小学校高学年以上になると、「自分と将来のつながり」を意識しながら、時間をかけて自主的・主体的な学習に取り組む姿勢が育ってくるのではないだろうか(図6)。



図6 発達段階に応じた宿題の在り方

4 今後の課題

(1) 合理的配慮の実践研究

「宿題ができない」「取り組まない」児童生徒に対して、単に児童生徒の自己責任としてよいだろうか。私たち教師は、平成28年4月に施行される「障害者差別解消法」を直前に控え、授業のユニバーサルデザイン化の視点で授業力の向上や宿題づくりを土台にしながら、さらに支援を必要としている児童生徒の個別の指導計画に、合理的配慮をどのように位置づけていくべきかを検討していく必要がある。

(2) 学習支援と家庭支援の背景を理解する

宿題の実践研究のアンケートのQ2「この宿題は、だれかに手つだってもらいますか。」の質問で、「家にはいるのはお母さんだけど、お母さんは、疲れて帰ってくるから相談できない。」と記述した児童がいた。学習の困難さの有無に関わらず、家庭支援を必要としている児童生徒も少なくない。

今後、学校教育は子どもたちが暮らす一人一人の家庭環境を想定し、学校教育内外の様々な角度から教育活動を行うことが求められる。そして、こうした社会的な課題に対して、学校教育は、地域・家庭と協働しながら、社会的包摂(Social inclusion)を推進していく必要がある。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また、校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申しあげます。

【参考文献】

- 丸山 啓史「小学生の宿題に関する教員養成学部学生の意識—宿題に困難を抱える子ども・家庭への配慮に関わって—」京都教育大学教育実践研究紀要 第13号 2013年
- 耳塚 寛明、浜野 隆 他「平成25年度 学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究（効果的な指導方法に資する調査研究）」国立大学法人 お茶の水女子大学 2014年
- Peter Senge 著、リヒテルズ直子訳「学習する学校(Schools That Learn -A Fifth Discipline Field book for Educators, Parents, and Everyone Who Cares About Education-)」英治出版 2014年

【指導助言者】

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 東京大学先端科学技術研究センター 准教授 | 近藤 武夫 |
| 川崎市立小学校特別支援教育研究会長(川崎市立井田小学校長) | 中西 伸夫 |
| 川崎市立中学校教育研究会特別支援教育部会長(川崎市立宮前平中学校長) | 山本 浩之 |
| 川崎市立特別支援学校校長会長(川崎市立田島支援学校校長) | 巴 好子 |
| 川崎市総合教育センター 指導主事 | 松田 裕行 |
| 川崎市総合教育センター 指導主事 | 宮嶋 俊哲 |
| 川崎市立木月小学校 総括教諭 | 蟻生 寛郎 |